

**毛利栄子**議員の 11 月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**から、質問の動画は右の QR コードよりご覧いただけます。



## ＊ ＊新型コロナウイルス感染症対策について＊ ＊

**毛利** 県は 9/25 までの第 7 波の対策の振り返りを公表した。それ以降、現在までの高齢者施設でのクラスターの発生状況、施設内療養の状況、高齢者施設内での死亡者の状況について伺う。また、そもそも施設内療養には無理があると考えるが、「原則施設内療養とする」現在の方針を見直すことや、続けるとすれば現状の支援策を強化することが求められると思うがいかがか。

**健康福祉部長** 9/26 以降 12/7 まで高齢者施設でのクラスターは 266 件、県内の高齢者施設は 1350 施設中、施設内療養は 321 施設で行われている。発生当初からの死亡者 516 名のうち、施設内療養中の死亡者は 76 名確認されている。施設内療養は患者受入れ病院に過度の負担をかけないためにも必要。施設への支援はクラスター発生時に感染管理認定看護師の派遣や検査キットの配布等行ってきた。また、施設内療養に要する経費等を上限額を設けて補助しているが、その上限額を原則 2 倍にする予算案を今議会に提出しており、さらに支援を一層強化していく。

## ＊ ＊県営住宅に関する諸問題について＊ ＊

**毛利** 名義人が死亡もしくは離婚などでいなくなった場合の入居者の承継について、長野県は原則配偶者のみとなっており、親子承継が認められず住み慣れた住宅を退去するように言われ困っているなどの例もある。自治体によっては子や孫まで広げているところもあり、長野県としても承継の枠を広げる運用をしていただきたい。

**建設部長** 承継できる方は原則として配偶者としているが、高齢者や障がい者等、特に居住の安定が必要な方についても承継を認めており、引き続き個々の事情を丁寧に把握して適切に対応していく。

※ケアリーバーとは児童養護施設や里親からの保護を離れた人のこと

## ＊ ＊ケアリーバー支援について＊ ＊

**毛利** 今年、長野県社会福祉協議会などの 6 団体が「社会的養護出身の若者サポートプロジェクト」を立ち上げ、アパートの確保などの居住支援、なんでも相談、就労支援などに乗り出した。ケアリーバーにとって重要な支援となる取組だと思うが、県としての評価と関わり方について見解を伺う。

**こども若者局長** 民間団体等様々な機関の協力を得た幅広い支援体制が構築されるということにつながり、支援の充実に向けた非常に有効な取組だ。今後も引き続き本プロジェクトと連携をし、支援充実に取り組む。

### ＊質問を終えて＊

コロナが感染拡大するもとで急性期病床を 2015 年～2021 年で 1447 床減らしてきたことの指摘に知事は充実・強化の必要性を明言。必要な医療を守りたい。

